



◀開村用水記念碑（平和2-8）（左写真）
用水開き記念碑（西野8-6）（右写真）

は埋め立てて平らに整地するという重労働でした。

平和地区では、丘陵地のため水の利が悪く、初期の水田造りは難航しました。そこで、平和の滝の上流から用水路を造り、自然流水を利用して田に引き入れるようにしました。水田には土を練ってどろどろにしたものを塗り、同じように水田の仕切りであるあぜにも土を当て、水漏れを防ぎました。用水路と水田の水の温度が比較的変わらないうちに水を入れるなど、水田の水がいつも温かいように努力したそうです。

西野地区では、明治三十三（一九〇〇）年に発寒川（現在の琴似発寒川）から導水し、長さ四キロに及ぶ「広島開墾用水」が完成しました。西野地区の土質は赤土（粘土質）で比較的水持ちが良く、表土も深かったため、また多くの用水路の完成もあって、平和地区に続き水

田開発が急速に進みました。

一方、福井地区は石が多い土壌だったので、まず表土の良い土をはいで積み上げ、石を掘り出して田と田の境界に積み、土を掛けてたいて固めます。一枚、また一枚と段差をつけて田を作り、表土の良い土を平均にまいて平らに整地します。土地によっては水漏れを防ぐため、田に土を入れて何回も水と土を練り、がれきの空間に泥水を入れて地盤を作りました。

こうした苦勞の末、上手稲にも水田が広がっていきました。この地域で取れる米は良質とされ「西野米」として高値で取り引きされるようになりましたが、収量は一反（約三百坪）当たり四俵ほどしかありませんでした。味が良かったため、すし米などに使われ、出荷先では秋田や新潟の米の札に付け替えられることもあったようです。

もみすり水車

刈り入れた稲は自然乾燥の後、もみを取ります。そして、もみすりをして白い米に仕上げます。



▲水車（手稲東小学校所蔵）

もみすりは土臼を四、五人掛かりで回して行われていました。が、大正時代に入ると用水路を利用した水車を使うようになりました。水車はもみすりのほか、かんがい用水の誘導にも使われました。しかし、昭和に入ってから徐々に電気モーターの精米に変わり、平成の現在、利用されているものはありません。平成二十一年（二〇〇九）年春に全面オープン予定の五天山公園には、復元された水車が設置され、公開されることになっています。



▲かつて西野にあった水車小屋

参考文献

手稲町誌上・下、新札幌市史、さっぽろ文庫1「札幌地名考」、同26「明治の話」、同40「札幌収獲物語」、同50「開拓使時代」、同77「地形と地質」、ていねひがし（札幌市立手稲東小学校開校百周年記念協賛会）、西野地区「水田地帯」への歴史水車は語る（西野地区に水車を復元する会・西野まちづくりセンター）

取材協力

- 札幌市立手稲東小学校
- 手稲記念館



▲手稲記念館郷土資料展示室（西町南21）
旧手稲町開拓の歴史にゆかりのある貴重な資料が多数保存・展示されています。
●開室日時 月・水・金・土曜日（祝日・年末年始を除く） 午前9時～午後5時 ●Tel.661-1017